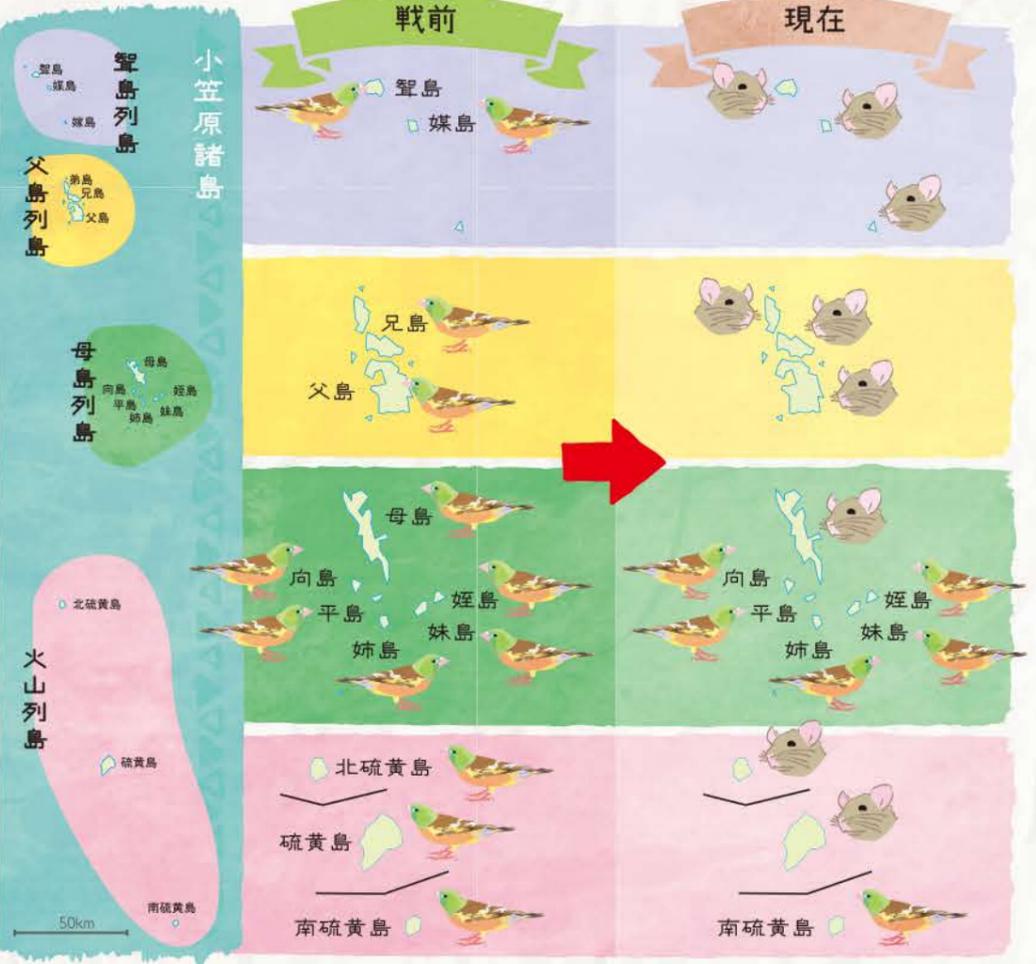


■分布縮小の原因

巣の捕食者となる外来種クマネズミが侵入した島ではこの鳥が絶滅しました。また、聳島列島や父島列島では、外来種ノヤギにより繁殖地の森林が破壊されました。



▲ノヤギの食害により森林が失われた煤島

島名 クザイモン

この鳥は小笠原ではクザイモンと呼ばれていました。小笠原には八丈島由来の方言が多く、これもその一つです。八丈島ではカワラヒワをシンドードリやデアコクリャーメなどとも呼んだそうですが、いずれも語源が知りたいですね。地域名があるということは、それだけ身近な鳥だったのだと考えられます。



マッチョくざいもん オガヒワの妖精。全てを筋肉で解決するタイプ。

■現在の減少の原因

母島列島では、属島における外来種ドブネズミによる巣の捕食、母島における外来種ノネコによる成鳥や若鳥の捕食、台風、干ばつ等の気象要因による食物の減少、個体数の少なさに伴う近交弱勢など、様々なリスクにさらされています。



島で始まった活動

母島では大人だけでなく子供たちも活動を起こしています。母島小中学校では、子供ワークショップが行われました。ここでは、1.愛称、2.宣伝方法、3.探す方法について真剣に話し合われました。また、地元の子供サッカークラブ「FCフォルサ母島」では、オガヒワの保全を応援するため「TEAM KUZAIMON」を結成しました。もちろん大人たちも活動をスタートしています。母島観光協会では、オガサワラカワラヒワのイラスト入り缶バッジを販売し始めています。また、隣の父島でも地元のお菓子屋さんの「トマトン」ではオガヒワクッキーを、「マーメイドカフェ」ではオガヒワパウンドケーキが販売されるようになりました。



オガヒワの会代表、情報発信担当

向 哲嗣 Akitsugu Mukai 【アイランズケア】

この鳥について、その大切さと現状を多くの皆さんに知ってもらいたいと思っています！

こちらもチェック！

【オガサワラカワラヒワー絶滅阻止限界点への挑戦ー】 <https://ogasawara-kawarahiwa.jimdofree.com>



オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ 2020 に向けて実行委員会が作成したウェブサイト。ワークショップ、生態、脅威、取り組み (2020~2021.1) についてはこちら！

■保全上のランク

- ★絶滅危惧 1A 類 (CR) (環境省レッドリスト)
- ★国内希少野生動植物種 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)

■推定個体数

現在は母島列島、火山列島の個体群を合わせても、繁殖個体数は全体で 200 羽程度しかいないと考えられています。

■ワークショップ

2020 年に地域住民、研究者、行政機関、環境保全団体など多くの関係者が参加して「オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ」が行われ、オガサワラカワラヒワの現状と今後の保全計画について、議論が行われました。そこでの結果を基に、保全対策の優先順位が決められ、今後の保全におけるアクションプランが策定されました。2021 年から本格的な保全活動が動き出しています。



▲オンラインワークショップの様子



WS 実行委員長、生態研究担当

川口大朗 Dairo Kawaguchi 【アイランズケア】

オガヒワが絶滅しないように、無人島にて個体数や生態を調べていきます！

■研究

個体数の変化、食物、遺伝的多様性など、保全に必要な情報を得るための調査が進められています。

■ネズミ対策

オガサワラカワラヒワにとって、安全に繁殖ができる生息環境を整備するため、まずは繁殖地である、母島属島でネズミ類 (ドブネズミ) の駆除を行います。現在、環境省の保全事業によって、向島のネズミ駆除が実施されています。



▲鳥が食べないよう、殺鼠剤はケースに入れて設置する

■ネコ対策

非繁殖期に利用される母島では、ネコによる捕食がオガサワラカワラヒワにとって脅威となっています。飼われているネコは外に出さないようにすること、また、野生化したノネコに関しては捕獲して順化し、人間の元で過ごすことができるようにする「小笠原ネコプロジェクト (<https://www.ogasawaraneko.jp>)」がすすめられています。



▲ネコかご設置の様子

■その他の取組み

・域外保全
いつ絶滅してもおかしくないほどの数しかいない野外個体群だけでは、保全がうまくいかない可能性もあるため、オガサワラカワラヒワを飼育・繁殖させて、数を増やす「域外保全」も計画されています。

・普及活動
2021 年 1 月に発足した、オガサワラカワラヒワを守るための市民団体である、「オガヒワの会」の活動を通して、地域に根ざした保全活動の推進と情報発信、啓発活動が始動しています。